



○聖書を学ぶ会（センター教員・越川弘英）

クラーク記念館で聖書を学んでいます（マタイによる福音書）。担当者（越川）が用意する釈義ノートを使いながら聖書を読み、ディスカッションをします。キリスト教に初めて接する方にも分かりやすく、なおかつ、ある程度の学術的な知識や見解も学べるような集いをめざしています。短い時間ですが、聖書に関心のある方はぜひお立ち寄りください。

（2カ月に1回程度 クラーク記念館1階
キリスト教文化センターラウンジ）

○聖書研究会（センター教員・森田喜基）

聖書には私たちの人生を輝かせる言葉や、深いメッセージがいっぱい詰まっています。そんな言葉との出会いを、同志社に学ぶ間にしてみませんか。「研究会」とは言いつつ、大部分は参加者の皆さんと一緒に聖書を読んで感じたことを、分かち合うことに重点を置いたプログラムです。互いの想いを聴きながら、楽しく学ぶことができます。聖書の言葉に触れてみたい方がおられましたら、気軽にお立ち寄りください。

（原則第2、4水曜日 10：45～11：45
同志社京田辺会堂光館（HIKARI-KAN）チャプレン室）

○バイブル・シェアリング（チャプレン・入順子）

春学期のバイブル・シェアリングでは、ことば一つを取り上げ、そのことばがもつイメージを分かち合い、その後、聖書においてそのことばがどのような意味をもっているかを考えています。第1回目は「光」を取り上げました。「光」が入っている熟語（閃光、観光…）、慣用句、そして、聖書の中に出てくる「光」。今後、「風」「水」など続けていきます。ぜひ、ラウンジを覗いてみてください。

（毎週木曜日 13：45～14：30
クラーク記念館1階
キリスト教文化センターラウンジ）

○聖書講座一君のバイブルアカデミー

（チャプレン・竹ヶ原政輝）

『聖書』はカタくて、ムズカシイという印象があるかもしれませんが、実は個性豊かな登場人物たちが織りなす壮大なヒーロー（救い主）の物語でもあります。ご一緒にその世界に触れてみませんか？そこに秘められたメッセージに、満たされない渇いた心が燃えるのを感じる人もいるでしょう。チャプレン室でお待ちしています！

（毎週金曜日 11：00～11：45
同志社京田辺会堂光館（HIKARI-KAN）チャプレン室）

お知らせ

○Doshisha Spirit Week 2021 春

6月7日（月）～6月12日（土）
同志社大学の歴史や建学の精神、新島襄についての講演など、同志社を学び、知るための企画を行います。創立の志に触れる1週間です。講演はZoomによる配信で行います。詳細につきましては、ホームページをご確認ください。

6月9日（水）10：45～
「『てきとうふき』漢字で書けなくても大丈夫」
脳科学研究科教授 貫名 信行

6月9日（水）14：55～
「日本記録ホルダー新島襄～日本人第1号×3～」
元神学部教授 本井 康博

6月10日（木）13：10～
「私の研究・教育を振り返って」
社会学部教授 埋橋 孝文

○メディテーション・アワー

オルガニストによるオルガン演奏を聴きながら心静かなひとときをお過ごしください。

今出川校地 7月27日（火）までの月～木 12：40～13：00
会場：同志社礼拝堂

京田辺校地 7月27日（火）までの月・木 12：40～13：00
会場：同志社京田辺会堂言館（KOTOBA-KAN）礼拝堂

○チャプレンとの面談

学生の人生における悩みや不安などの相談に応じています（教会のみならず、学校、病院などで働きを担う牧師をチャプレンと呼びます）。

今出川校地・京田辺校地
随時受付：越川 弘英、森田 喜基

今出川校地
木曜日 13：00～15：00 入 順子

京田辺校地
金曜日 10：30～12：30 竹ヶ原 政輝

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、変更が生じる場合があります。各行事の詳細および最新の情報は、ホームページまたはキリスト教文化センター掲示板のポスター等をご覧ください。HP：http://www.christian-center.jp/



チャペルアワー案内

2021年6月2日

No.252

同志社大学

キリスト教文化センター

京田辺
0774-65-7370

今出川
075-251-3320

HP
http://www.christian-center.jp/



聖書に出てくる動物「羊」

イラスト 中谷隆志



春学期チャペル・アワー統一テーマ

「求めなさい。そうすれば、与えられる。」
（マタイによる福音書7章7節より）

このイエスのことばを読むと、季節はずれですが、子どもたちとサンタクロースを想います。子どもたちはクリスマスが近づくと、サンタクロースに欲しいプレゼントを書いた手紙を出します。すると、クリスマススイブの晩、ある子どもたちには、欲しかったプレゼントが届きます。後者の方は大人の事情によるものなのですが、その子どもたちはがっかりしたでしょうか。手紙を出してから、クリスマスまでの間、ワクワクした特別な時間を過ごしたのではないのでしょうか。

「求めなさい」ということは、「欲しいものをください」ということではないと思います。「欲しいものをください」とは、求める視線の先にあるものが、「欲しいもの」であり、それが「与えられる」と言っていることとなります。このイエスのことばの「求めなさい」は「祈り求めなさい」ということを表しており、つまり、その目的地にあるものが神なのです。わたしたちは、祈るとき、神へ姿勢を向き直すからです。神に祈り求めるとき、すでにそこには「良いもの」が与えられているかもしれません。

（キリスト教文化センターチャプレン）

日本キリスト教団京都教会副牧師 入 順子

チャペル・アワー

年間実施予定

春学期…7月27日(火)まで

秋学期…9月28日(火)～2022年1月21日(金)

◎当日の奨励題や配信のスケジュールなど詳細につきましては、ホームページや学内掲示板をご覧ください。
◎チャペル・アワーに参加の方は、マスクを着用し、間隔を空けて着席してください。
◎感染症対応のため、ご退出の際は、入口で配布する参加者カードをご提出ください。

スケジュール(春学期後半)

京田辺校地

月/日	奨励者
7/16	越川弘英
7/9	山下壮起
7/2	谷香澄
6/25	今井このみ
6/18	山下壮起
6/11	竹ヶ原政輝
6/4	谷香澄
月/日	奨励者
7/27	森田喜基
7/20	吉岡恵生
7/13	川江亜希子
7/6	渡辺圭一郎
6/29	内山友也
6/22	森田喜基
6/15	川江亜希子
6/8	吉岡恵生

火曜ランチタイム・チャペル・アワー

同志社京田辺会堂 言館礼拝堂 毎水曜日12時35分～13時

今出川校地

月/日	奨励者
7/16	木谷佳楠
7/9	宮岡真紀子
7/2	入順子
6/25	堀江有里
6/18	越川弘英
6/11	木谷佳楠
6/4	宮岡真紀子
月/日	奨励者
7/27	吉岡恵生
7/20	三宅威仁
7/13	森田喜基
7/6	黒田裕
6/29	中川好幸
6/22	平山正道
6/15	山崎道子
6/8	竹内富久恵

火曜チャペル・アワー

同志社礼拝堂 毎水曜日17時30分～18時10分

水曜ランチタイム・チャペル・アワー

同志社京田辺会堂 言館礼拝堂 毎水曜日12時35分～13時

月/日	奨励者
7/21	仲程愛美
7/14	稲山聖修
7/7	下嶋篤
6/30	青木保憲
6/23	中島淳
6/16	福原タカヨシ
6/9	山下智子
6/2	永口裕子
月/日	奨励者

水曜チャペル・アワー

同志社礼拝堂 毎水曜日10時45分～11時30分

月/日	奨励者
7/21	深見祥弘
7/14	川江亜希子
7/7	渡辺圭一郎
6/30	新井純
6/23	青山謙二郎
6/16	高田太
6/9	望月修治
6/2	小笠原純
月/日	奨励者

金曜ランチタイム・チャペル・アワー

同志社京田辺会堂 言館礼拝堂 毎金曜日12時35分～13時

月/日	奨励者
7/16	越川弘英
7/9	山下壮起
7/2	谷香澄
6/25	今井このみ
6/18	山下壮起
6/11	竹ヶ原政輝
6/4	谷香澄
月/日	奨励者

金曜ランチタイム・チャペル・アワー

同志社礼拝堂 毎金曜日12時35分～13時

月/日	奨励者
7/16	木谷佳楠
7/9	宮岡真紀子
7/2	入順子
6/25	堀江有里
6/18	越川弘英
6/11	木谷佳楠
6/4	宮岡真紀子
月/日	奨励者

エッセイ

『コロナ禍の春2021』

福岡義之

今年の桜の開花は例年より早く、卒業式に合わせて始まってくれた。昨年の卒業式は中止だっただけに、学生との最後の会話ができたことは感無量であった。京田辺キャンパスの桜は、4月1日の入学式までもたないだろうと思っていたら、満開の時期は過ぎたが、スーツに身を包んだ新入生を歓迎してくれた。新2年生を対象に1年遅れの入学式を開催するというイベントも各大学で実施されていた。

3月25日より東京オリンピック・パラリンピック大会に向けた聖火リレーが福島からスタートした。今後各地で聖火リレーが開催される予定であり、京都市内では5月26日夜に京都御所界隈で予定されている。大阪では感染拡大によって市街での聖火リレーが中止された。7月末に開催されるであろう、東京オリンピック・パラリンピック大会に向けての選手選考も始まった。選考会を中止する団体もあり、大会への模索が続いている。4月中旬、春の桜や移動の時期と重なって第4波の大波が大阪を中心に関西圏全域で拡大している。TVでは東京オリンピック・パラリンピック開催が叫ばれ、有識者や芸能人をキヤストに開催・中止のシミュレーションがメディアを賑わせている。

2020年、これまでの大学教育は完全に消滅し、教育コンテンツをネット環境に投げ込んで、非対面での教育を強いられた。学生も職員も、混乱しながらも手探りで何とか乗り切った。1年が過ぎたが、この春もコロナ禍であることは変わらない。第4波が到来し、また対面授業を中止して、すべての授業がオンラインになるのかとじっと見守っている。

ワクチン接種も各国で始まり、日本でも漸く高齢者への接種が開始された。ワクチンの入荷状況がよく分からないが、国民全体に行き渡するには数カ月かかりそうだ。

4月、緩やかに暖かくなって近所の河川では菜の花、撫子が咲いている。寒暖の差は大きいですが、畑仕事しやすい季節になってきた。私ごとではあるが、先の尖ったスコップで畑の土を反して細かく砕き、肥料や空気が入りやすい環境をつくった。以前はすべて人力でやっていたが、最近では耕うん機の力を借りて畑の土を耕している農家が多い。土の独特な香りが春を感じる瞬間である。畑だけではない。田んぼに水を張り、大型の耕うん機で土を細かく攪拌し苗植えの準備をする。12畳ほどのハウスでは苗の準備を始める。こんな作業がゴールデンウィークの週末まで続いていく。

コロナ禍の春、これまで経験したことのないウイルス感染により生活のすべてが混乱し、世の中が混沌としている。そんな大変な世情でも、(兼業)農家では春になると決まって訪れる生活の営みがあり、季節ごとの野菜をつくり、米を生産していく。そんな田畑の農作業こそが自分のやるべき姿かと最近ふと思う。

4月吉日

(ふくおか・よしゆき)スポーツ健康科学部教授

